2016年　アニマンダラ連続レクチャー vol.5

ANIMANDALA

シンカにミル・ココロのカタチ・シャエイ神化論

新たな知覚を開くインテリジェン・トーテミズム

初めに言葉があった。
言葉は神と共にあった。
言葉は神であった。
この言葉は、初めに神と共にあった。
万物は言葉によって成った。

（ヨハネ福音書　1:1～1:5 ）

物理宇宙に、視覚を持った生命がいなければ、見るものと見られるものがなければ、
空間的広がりは存在しません。
これは、ある意味で、存在はあっても宇宙がないのと同じではないでしょうか？
天之御中主の世界、"ある"だけの世界です。
観測者がいない事になるので、その意味でも宇宙は存在しないとの表現もできます。

その意味では、カンブリアン爆発とは本質的にはビッグバンと同じ現象の
位相の違いと言えるのではないでしょうか？

見るもの、見られるものが登場することで宇宙=時空が生まれるわけです。

また、私たちが認識する"世界"は、物理空間と言語空間の重ね合わせにあります。
語るものと語られるものを作り出す言葉がなければ、意味を持った空間は生まれません。
私たちにとっての"世界"は意味空間、つまり概念化された空間、
言語空間そのもののと言えるでしょう。
その意味で"世界"とは人間だけが所有しているものと言えるでしょう。

言葉がなければ"世界"は語ることも、語られることもなくなるので、
同様に無いのと同じであるとも言えます。

◉言葉は上位の光

*量子力学・波動関数

見る事！　見えた！

見ることが物質と空間を作る ➡物理空間の形成

*見るとは光を受け取る事

▲
位相の違い
▼

知る事！　分かった！

言葉、名ざしと語り(意味説明)が物と世界を作る。 ➡言語空間の形成

▼

言語空間の形成と物理空間の形成が重なる
人間にとっての物理空間は、概念を通して知覚されることから
言語空間に物理空間は折りたたまれています。

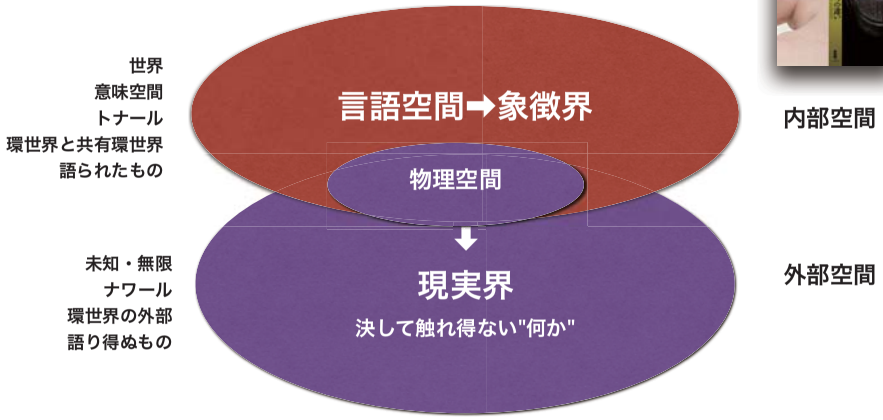
概念メタファー

明暗メタファー　明らかになる(ハッキリと分かる)
クリアーだ(明晰に理解している、見通しが良い)
ある分野に明るい（その分野を熟知している）

▼

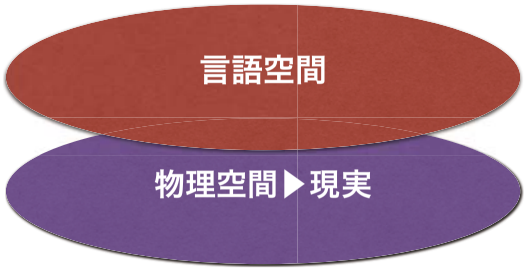
喩えは、単なるたとえ話ではなく
認知の根底にある、根本的な重ね合わせとして機能しています。
アナロジーは私たちの認識の根底にあり
それが言葉を多様化させ、言葉が世界を作ります。

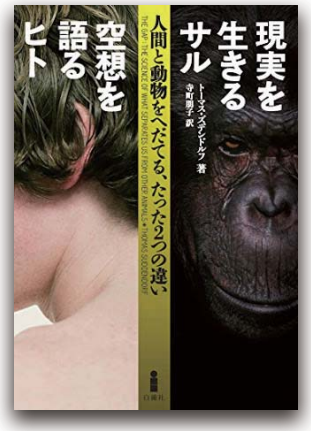
動物と人の意識の違い



ラカンの象徴界・現実界
(動物には現実界しかない)

人間は二重の空間性に生きている

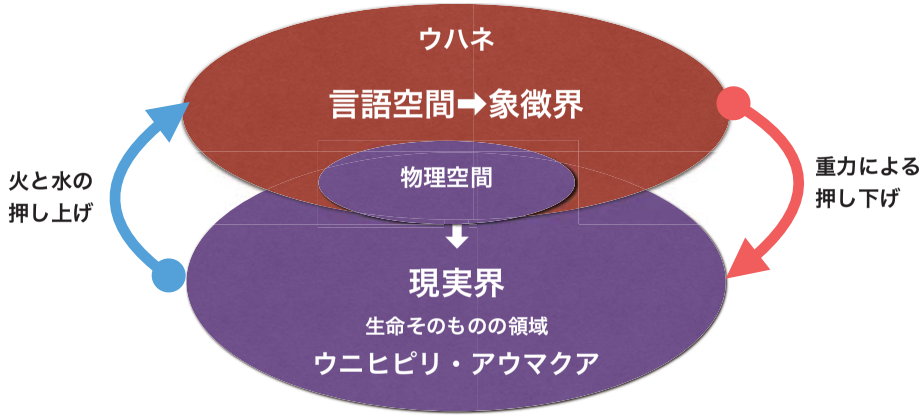




私たちは概念を通して世界を受け取ります。
概念は言葉の集合体ですから、"世界"は言葉で
できていると言えます。
目が無いと空間が広がらないように、
言葉が無いと"世界"はありません。

動物には時空はあっても
"世界"はありません
だから、物語は
語らないのです。

動物と人の意識の違い



ラカンの象徴界・現実界
(動物には現実界しかない)

「言語との出会い」は、現実をラカンのいう「不可能なもの」に変える。

われわれは一生、現実に触れるということに対する抵抗とあこがれの間で揺れ惑う。しかし、人が事後的に現実を垣間見「てしまった」り、現実に触れ「てしまった」りすることがある。

たとえば、それは狂気である。ラカンは、精神病を条件づける要因として、このことを見出した。また、ラカンは、人はすべて世俗的な価値体系を脱すると思われる「死ぬ瞬間」にも現実が見えるのではないか、とも言っている。

ロゴスとしての生命言語
言語空間から情報空間へ

言霊 ウ

始原の知覚であるウ言霊の心理的正体は何であるかと云うと人間のみならずあらゆる動植物を通じて、最初の最も単純な、原始的な、直接的な、衝動的な、本能的な精神活動は感覚であり、人間にあっては眼耳鼻舌身の五官感覚である。

ウ
↓
ア　ワ

言霊 アワ　高御産巣日神・言霊 ア　神産巣日神・言霊 ワ ◀アニマンダラ的には逆

天之御中主神ウは揮然たる一者であるが、この一者から初めて天地が剖判を開始する。天地が剖れてアとワに対立すると云うことは、吾と我(汝)二つに剖れると云うことである。

母音

アイウエオを少名彦神と云う。少は稚(若) 、名は言葉と云う意味で、若い言葉と云うことである。アイウエオは大自然界の音すなわち梵音であり、「アワアワ」とのみ云う嬰児の幼稚な言葉である。

ウ・ア･ワの三音を造化三神という。

株式会社七沢研究所　新装版 言霊百神

生命系統樹は、ウから始まるアワアワ

原初の生命、最初の遺伝子は、泡から生まれた

ア！
は指し示し
見る事
感じ取る事
在る我

カタカムナ・ハワイでは
"生命"を現す
アレ➡対象を指し示す

ア ワ ア

口のカタチは普遍

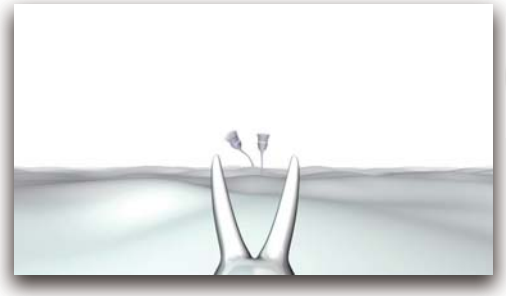
ワ！
は見られる驚き
自己と他者の結合
"調和"を現す。
我在り

広がる世界を表す
ワには、アが含まれる。

ワレ➡私を指し示す

ワ ア ワ

口のカタチが広がる



ア！

観る
めでる
愛でる

視界と共に世界が形成されていく
世界と私は一体、もしくは潜在化

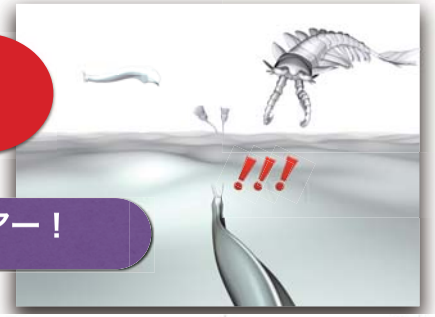
捕食者

見られる
▼
自己の形成

自己側からの押し返し

ワ！

ウワアー！



ウロボロスの旋回運動

① 生命の初期欲求 ―
未知(世界)の発見
最初の捕食(感動)
心地よさを求める
幼児的純粋欲求

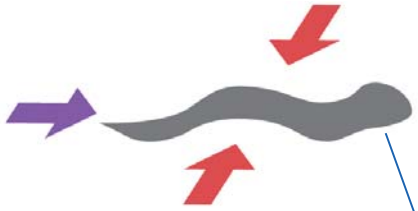
ア

観る意識 私 と 世界 見られる意識

ワ

② 世界との相対関係 ―
私の発見
比較と競争
捕食者と被捕食者

蛇の体軸と意識



観る主体軸
未知への欲求
背骨の軸

ア

前を見る顔

見られる身体軸
最適化への欲求
表皮の軸

ワ

ア　奥行き軸　観て、前進することで広がる世界
ワ　水平軸　見られている体と、世界に投げ出された主体

ウロボロスの旋回運動

ア

忘却された、始まり

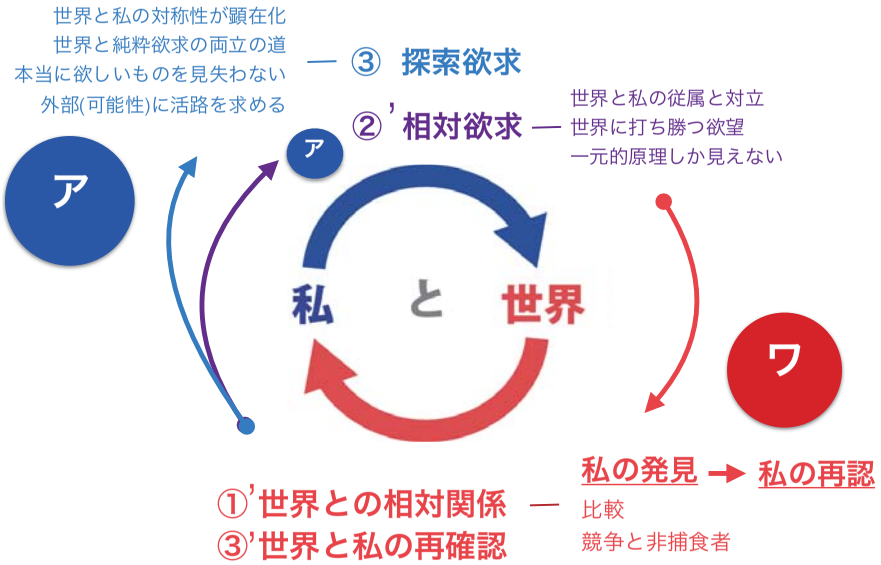
① 生命の初期欲求 ―
最初の捕食
心地よさを求める
幼児的純粋欲求

観る意識 私 と 世界 見られる意識

ワ

①'世界との相対関係 ―
私の発見
比較
競争と非捕食者

ウロボロスの旋回運動



◉アワとイデアとカンブリア

我々の魂は、かつて天上の世界にいてイデアだけを見て暮らしていたのだが
(ア、見る事、最初の開眼、生命の初期衝動、純粋認識)

その汚れのために地上の世界に追放され、肉体（ソーマ）という牢獄（セーマ）に押し込められてしまった。(ワ、見られる事、捕食と非捕食、自己と他者)

そして、この地上へ降りる途中で、忘却（レテ）の河を渡ったため、以前は見ていたイデアをほとんど忘れてしまった。(ワの中に忘れ去られるア)

だが、この世界でイデアの模像である個物を見ると、その忘れてしまっていたイデアをおぼろげながらに思い出す。このように我々が眼を外界ではなく魂の内面へと向けなおし、かつて見ていたイデアを想起するとき、我々はものごとをその原型に即して、真に認識することになる。
(生命の初期衝動の想起、見る事=奥行きの顕在化)

プラトンのイデア論 中期の描写

マカバ➡情報空間構造　自己と他者の言語空間の全体性

正4面体、マカバ、8面体の構造は、生物進化(動物進化)の領域では、
光と時空間形成のモデルとなります。
人間の意識では、自己と他者の言葉を統合する情報空間構造となります。
言葉は光の上位構造なので、抽象構造は同じ形となり、
二重のマカバとして表現できます。

◉全てが言葉からできている

神の言葉であるロゴス。これは日常的にイメージする、話し言葉や、書き言葉を超えたものであることに、注意が必要です。

それは、音、形、色にまで遡る、根元言語、生命言語と言えるでしょう。

一般的に意識される言葉とは、単語や数が文法によって連なる意味体系と言えますが、そうした人の言葉は、単語にせよ数にせよ、意味を固定化していきます。それは外骨格化した言語というべきもので、私たちを強固な概念に縛り付ける、蜘蛛の巣の言葉と言えます。

ロゴスとしての言葉の本質は、単語や数だけではなく、その要素や隙間にこそある、と言えます。

音霊・形霊・色霊は生命言語

言葉の背後にある言葉。
音の言葉(音霊)、カタチの言葉(形霊)、数の言葉(数霊)
それらは生命言語と呼べる言葉の本質です。

情報空間の顕在化は、生命言語が世界を形作る
プロセスを認識できるまで、言語認識が拡張さ
れることでもあります。

言霊=数霊・音霊・形霊・色霊
▼
情報空間言語・生命言語

鳴き声、ダンス、模様、カタチ

言葉とは、人間が発達させた音声による高度なシンボル操作能力であると科学的には説明されます。
文字と数は、同様に形態によるシンボル操作能力になります。

モールス信号や手旗、手話も言葉であるように、身振り手振り、ダンス、色や模様も同様であり、広義の"言葉"と言えます。
これをパターン言語と呼びます。
世界を生み出す言葉とは、こうした領域を含みます。
これらは生命言語であり、身体言語、あるいは無意識言語 と表現できます。

シンボル➡スン(一緒に)+バレイン(投げる、結合する)　　バレインはボールの語源

言葉の本質は、言葉と言葉の隙間、意味と意味を橋渡す間にあります。
それは行間であり、それは図と地の関係と同じ構造を持ちます。
ですから言葉は空の間、空間構造を作り出します。(言語空間)

その間を満たすのが、外部であり、ナワールであり、現実界という事になります。言語空間は、言葉と言葉の間に知覚されない領域で満たされています。

言葉は世界を生み出すが、現実界は(真実の事象)
は言葉の間に滑り落ちます。

言霊と生命言語

カタカムナなどの神道系の言霊、ハワイなどポリネシアの言葉、光透波などは
単語以前の解体された、一音語の読み解きを重視しています。
これは、言霊であると同時に音霊とも言えるでしょう。
また、カタカムナ文字や、光透波の漢字の読み解き、書などは形霊と言えます。
加えて言霊系の世界は、文字を数に変換し、数霊を読み解けるのが一般的です。
このことから言霊は同時に、音霊、数霊、形霊でもあることがわかります。

言霊の基盤になる母音が生命の根源的な音である事、また、アワが自己と他者、
見る事・見られる事にも対応できる事から、言霊の世界形成は、カンブリア爆発と
同じ事象の表裏と捉える事ができます。これらはまた、言葉が上位の光である意味
でもあります。

世界を作り出す言葉の根幹は、日常の話し言葉の深層にある、こうした生命言語構
造であり、情報空間の顕在化は、そうした構造の顕在化とも表現できます。

「拈華微笑(ねんげみしょう)」

仏陀は一言も言わないで説教したと言われている。
彼は一輪の花を聴衆に差し出しただけだった。
これが有名な、かの「拈華微笑(ねんげみしょう)」である。

パターン言語、花の沈黙せる言語による説教であった。

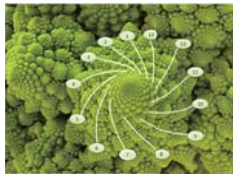
花のパターンは何について語るのか。
もし注意深く花あるいは似たような他の自然的・人工的な対象を見るならば、われわれはそれらすべてに共通した統一と秩序を見出すだろう。

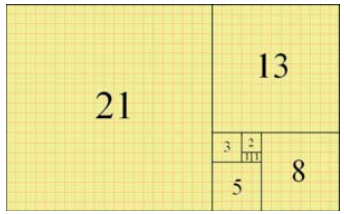
この秩序は、繰り返し現れるプロポーションのなかに、
また、一あい補う対立物の結合によって一すべてのものが育ち、
つくられると同様のダイナミックな方法のなかにも見られるであろう。

青土社　デザインの自然学. p7

フィボナッチ数列

a:b=b:(a+b)





0, 1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, 34, 55, 89, 144, ...

最初の二項は0, 1 で始まり、以後どの項もその直前の2つの項の和となる数列。
フィボナッチ数列の3以降の２組は、a:b=b:(a+b)となり、黄金比へと収束するため、作図表現にも使われます。

黄金比 ϕ

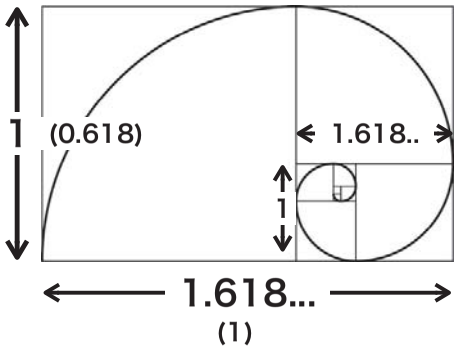
a:b=b:(a+b)　5:8=8:13

$$\phi = \frac{1+\sqrt{5}}{2} = 1.6180339887\ldots$$

黄金数には，次のような性質がある。

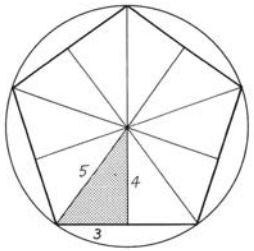
$$\phi^2 = \phi + 1 \quad = 2.6180339887\ldots$$
$$1/\phi = \phi - 1 \quad = 0.6180339887\ldots$$

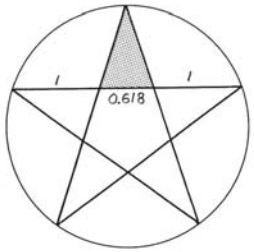
黄金比の角度、黄金角は137.5077...

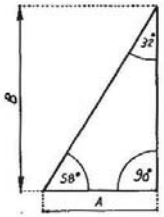


オウム貝、花、植物の葉のつき方、動物のプロポーション、DNAの構造などなど、有機体の特に成長パターンに見られる構造。もっとも美しい比率とされ、意図的にも無意識的にも芸術に多く取り入れられてきました。
自然の事物、世界のイデアを示すパターン言語です。
a:b=b:(a+b)は、フィボナッチ数列の比率でもあり。
また、それは決して割り切れる事のない無理数でもあります。

黄金比 ϕ







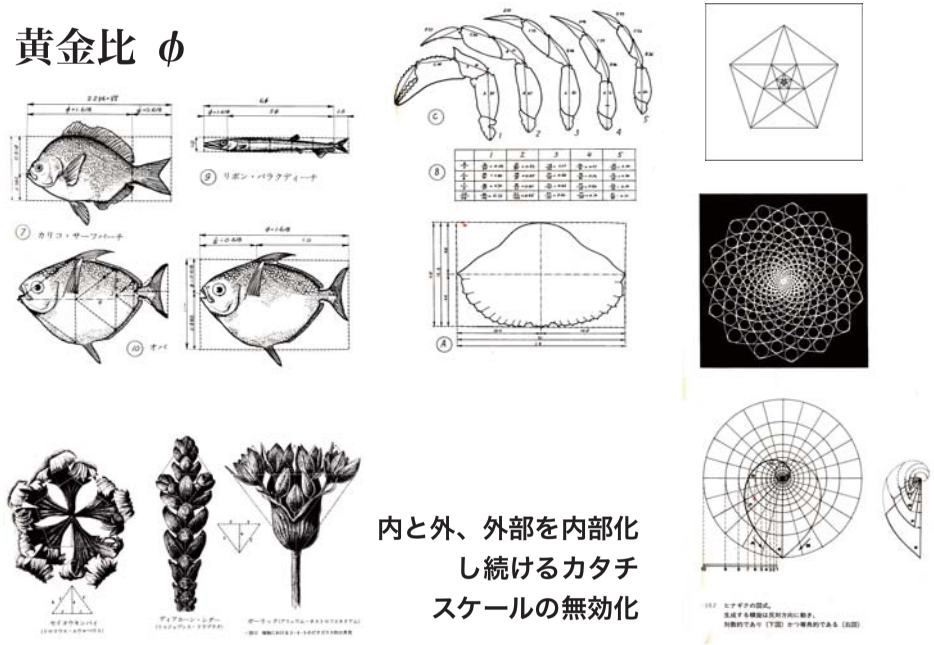
$\frac{A}{B} = \frac{1}{1.618} = 0.618\ldots$

$\frac{A}{B} = \frac{5}{8} \approx 0.625 \fallingdotseq 0.618$

（5：8 直角三角形の
正確な角度は
32度 0 分20秒と
51度59分40秒）

・図9　五角形とペンタグラムは
ピタゴラス的三角形と黄金比を示している

黄金比 φ

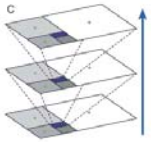


内と外、外部を内部化
し続けるカタチ
スケールの無効化

フィボナッチ数列とは、
成長と進化を推進する生命に内在する進化の方向性のカタチ

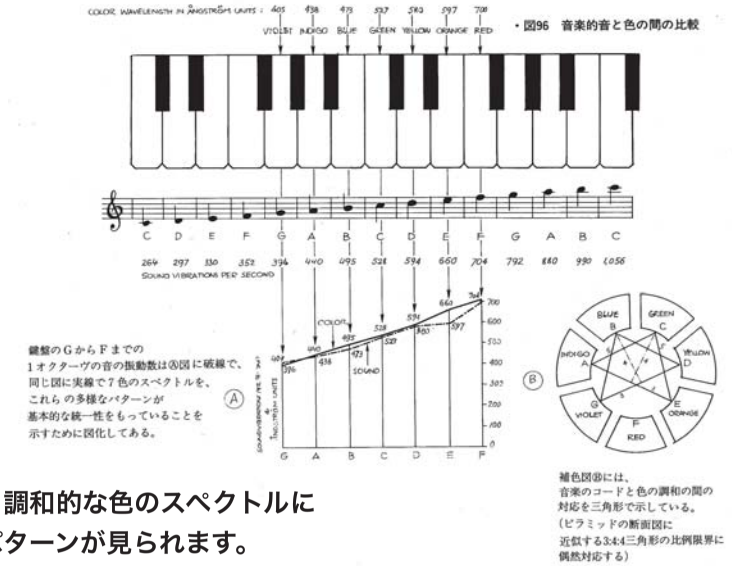
黄金角

◉植物の葉のつき方や、ロマネスコの成長。
➡葉が重ならず最も均等になる
◉ヒナギク、ひまわりの種のつきかた。
◉植物の成長点が、成長を続けても、同一比率であ
ターン。
◉カタツムリやオウム貝など巻貝の成長パターン
◉樹木の枝別れ成長パターン
◉フィボナッチ数列は元々多産のウサギが増えていく数理モデルとして考案された。
◉ハチやアリなど、オスに父親がない家系を辿っていくとフィボナッチ数列が現れる（父母2匹、祖父母3匹、曾祖父母5匹、高祖父母8匹…）



樹木の成長と、種の繁栄を示す系図は、同じフィボナッチの樹図形となります。
フィボナッチは個体の成長にも、種の発展にも内在しています。フラクタルパターンの類推から、種我同型論の骨格となる、種の外骨格系と内骨格系の分化パターンは、黄金比やフィボナッチパターンとなると考えられ、現在精査中です。

音霊、色霊としての黄金比 φ



調和的な音階、調和的な色のスペクトルに
同じ黄金比のパターンが見られます。

黄金比(フィボナッチ)とは、

有機体が成長、進化していくときの、最も安定的で調和的、健康的な
フラクタルパターンが黄金比、黄金角です。動物の身体的の成長の比率です。
それは、音にも、色にも、形にも、数にも反映されている事から
進化と成長に隠された、形霊・音霊・色霊・数霊の統合パターンです。
生命現象の根底にあるパターン言語ですが、これが無理数であるという事にもポイントがあります。

無理数➡割り切れない➡理性の彼方にある。
➡数と数の隙間から漏れる現実界の表層

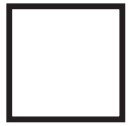
y/x=x/x+y=対象a
ラカンの愛の方程式とフィボナッチ
a:b=b:(a+b)

母
▼
男:女=女:(男+女)
▼
子
◀子孫=進化の方向
進化とは、子が親と異なる
ものに変化していく事

超人
▼
他者:自己=自己:(他者+自己)　**動物:人間=人間:(動物+人間)**

b

a



a:b=1:1

差異がなければ、
回転は角度に関係なく閉じてしまいます。
角度を、変化(進化)とした場合、変化は同一平面に回収され、ループして
しまうことに。つまり、進化が止まっている事を意味します。

a:b≠1:1

であれば、角度に関係なく螺旋運動になります。
その時、植物の葉の回転角のように、黄金比は、最もバランスよく分配される運動
となります。偏り(重なり)が生じる場合、そこに変化しない固まった部分、葉であれ
ば影がます。
b:(a+b)は、変化が偏らず、永遠の差異を同じ比率の中に内包します。
永遠の進化の数。

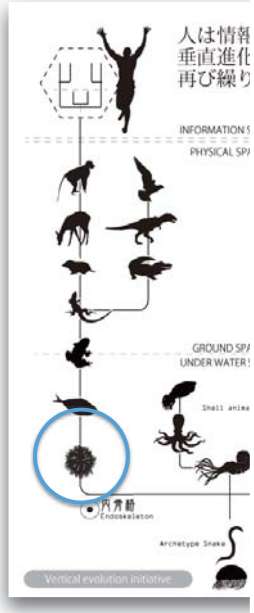
外骨格は同質性を求めるため、1:1に近づく
a:b=b:(b-a)/z+b　　差異を縮めていく比率

z=2の場合
5:8➡8:9.5➡9.5:10.25➡10.25:10.625➡10.625:10.8125

背骨と黄金比と進化

オウム貝　　アンモナイト

黄金比のオームガイ
だけが生き残った



a:b=b:(a+b)内骨格は、黄金比に近づく

相手と同じにならずに、しかし互いを含むには、黄金比が最適となります。永遠の男と女の結婚の数。負け組進化は、この比率を保とうとします。

外骨格は同質性を求めるため、1:1に近づく
a:b=b:(b-a)/z+b　　差異を縮めていく比率

z=2の場合
5:8➡8:9.5➡9.5:10.25
➡10.25:10.625➡10.625:10.8125

b

a

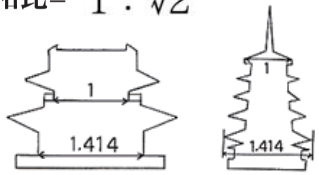
内骨格は、黄金比に近づく
a:b=b:(a+b)

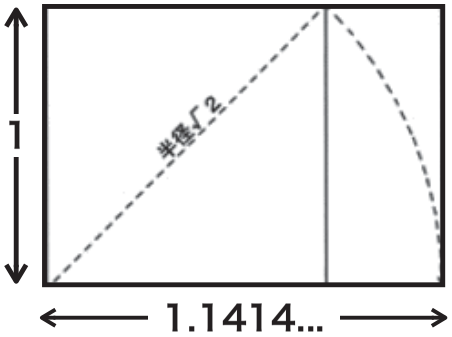
相手と同じにならずに、しかし互いを含むには、黄金比が最適となります。
永遠の男と女の結婚の数。負け組進化は、この比率を保とうとします。

白銀比 ・大和比

白銀比= $1 : 1+\sqrt{2}$

大和比= $1 : \sqrt{2}$





黄金比は、生物や自然に通底し、ピラミッド、パルテノン神殿をはじめとした
西洋建築物に多く見られます。それに対し、白銀比(大和比)は、日本の建築物のス
タンダードな比率です。用紙のA版B版など馴染み深く、正方形を基準とし、
半分に折っても同じ比率を維持します。
黄金比と同じく、フラクタルなパターンであると同時に、木材など
資源を効率よく使うために、日本で編み出されたとされる比率。
ドラえもん、くまモンも白銀比。第二貴金属比とされ、黄金比と同様無理数です。

黄金比と白銀比

黄金比、白銀比ともに、以下の式に要約され、これを貴金属比といいます。
n=1が黄金比で第二貴金属比。n=2が第二貴金属比の白銀比となります。
n=3は第3貴金属比で青銅比とも呼ばれます。

$$1 : \frac{n+\sqrt{n^2+4}}{2}$$

黄金比(n=1)
自然の事物に見られる比率。
平均的な男性の身体比率 。
西洋人の顔。大人の美人。
ピラミッド、パルテノンなど
西洋建築物
名刺

大和比・白銀比(n=2)
日本で生まれた比率。
日本の建造物全般や、用紙サイズ。
日本の伝統的な規格サイズとして生まれた。
平均的女性の体型比とも言われる。
縄文人の顔。可愛い顔。

美のビーナスの黄金比
豊穣のビーナスの白銀比

黄金比は自然の美
白銀比は自然に寄り添う美

日本の里山は白銀比的文化
▼
自然との融合の本質を教えるのが白銀比

a:b=b:(a+b)のアナロジーから白銀比を考える

現実界を表層する言語
無理数φ
▲

白銀比
無理数であり倍数
▲

自然比:人間比=人間比:(人間比+自然比)

▼
工業的規格倍数
3:4など実数が多い

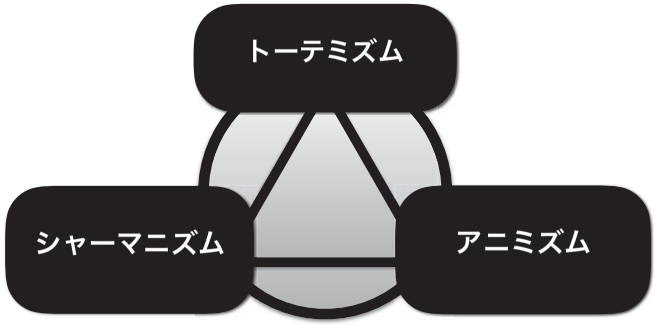
白銀比は言語が上位の光であるように、上位の黄金比

自然比:人間比=人間比:自然比

◀位置を交換し続けて閉じた状態

1:1

インテリジェント・トーテム



▼

文化、地域を超えた
普遍的な霊性のアーキタイプ
近代自我の洗礼を受ける前の
剥き出しの霊性であり、多神教的世界

▼

インテリジェント・トーテミズムは
これらを脱物語化した領域で捉えなおしたもの

アニミズム

anim-ism　無生物、生物を問わず万物に霊が宿るという、世界中に見られる原始宗教。諸民族の根底にあるプリミティブな神の概念で、事物に人格を投影し擬人化する。羽のある人=鳥, 動かぬ人=石, 直立する人=樹木。精霊信仰。
また、人格性を欠いた生命力そのものの力も指し示す。日本の八百万の神はその代表。多神教そのもの背景となる信仰。汎神論の世界。生命主義。

シャーマニズム

シャーマン(巫女、霊媒、トランスにより霊的世界に参入する力を持つもの)により成立している、宗教もしくは宗教的形態の総称。アニミズム文化は基本的にシャーマンが介在者なので、シャーマニズムと考えても良い。日本のイタコ、沖縄や奄美のノロ、ユタもシャーマン。これらはアニミズムにおけるシャーマニズムの典型例。

トーテミズム

アニミズムにおける、祖霊信仰。必然的にその祖霊は人だけを指すのではなく、無生物から生物、人からその子孫へと時間を超えて流れる一連の永遠の繋がりを示します。
アニミズムにおける、霊と人の系譜。進化論とも重なる、時空連続体としての構造物。しかし、それは実時間ではなく、時間を超越する霊を通して、"今"に一体化しているため、時空を超えています。アニミズムに系統的な関係性の概念が入ったもの。突き詰めれば、世界と人間の根底的関係性を示すモノリスと言えます。
シャーマンが分け入る無意識世界の構造物です。

アニミズム、シャーマニズム、トーテミズムは宗教のアーキタイプを
どの視点で切り取るかの表現の違いです。

インテリジェント・トーテミズム

民俗学的な原始宗教の伝統の延長にそれらを捉えるのではなく、そうした伝統の中に隠されたアナロジックな意識の抽象構造として捉え直し、"今"のこの瞬間の現代的な知性として蘇らせました。

生物進化の視点で、トーテミズムを脱物語化し、同時に生物進化などの科学的視点に霊性を回復させます。また、トーテミズムは、時空を今に畳み込ませるので、生物進化の時空概念を反転させることになります。

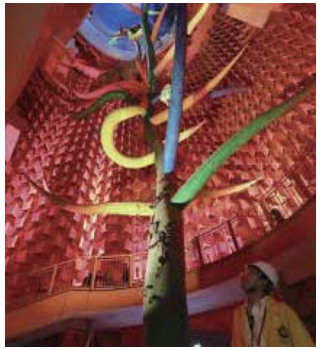
また、これらの多神教的世界観は、現代人の個と全体の対立関係を反転する働きがあり、近代的世界観を次へと開くカギになると考えています。

トーテミズムやアニミズムへの回帰が黄金比思考なら
インテリジェント・トーテムは白銀比のトーテミズム

内部の生命系統樹▶

反骨精神の芸術家、岡本太郎。
彼は万博のアートディレクターに
就任した時、文明の調和と発展と
いうテーマを嘲笑い、それをぶち
抜く意図を持ったそうです。

太陽の塔は日本の神話をベースに
生命系統樹(進化)と
トーテムを統合した
文明に屈しない、生命の精神と
読み解くことができます。

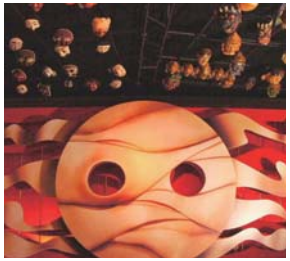


天照大神

太陽の顔

黒い太陽

地下の顔



ANIMANDALA

シンカにミル・ココロのカタチ・シャエイ神化論

インテリジェント・トーテムの時空概念

ベルクソンの純粋持続とトーテム

哲学者のベルクソンは、空間的概念発生以前の瞬間瞬間の今、今と連続する間断無き意識の一瞬一瞬の連続する流れを純粋持続と呼びました。これはツインウロボロスの初期衝動の連続に生きることを意味します。

私たち人間は、世界を、記憶と言葉(言語空間)が織りなすイメージの展開で、過去、今、未来が一つの時空間のまとまりとして、間延びして体験しています。 これを第二の持続と言います。

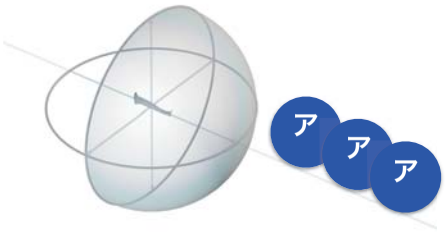
しかし、動物(生命)は言語空間を持たないため、断片的な過去と未来はあっても、瞬間瞬間の直接体験の連続として、ずっと永遠に変わらない瞬間の世界を受け取ります。

創造的進化（そうぞうてきしんか）とはアンリ・ベルクソンによって提唱された哲学の概念。
生物は進化をしているが、それは因果的であったり目的を持った上で行われているということではなく、生物自身にとっても予測をすることができないような飛躍によって進化をしており、これは創造的活動であるということ。
このことから創造的進化では目的論や機械論は否定されているということになる。

▼

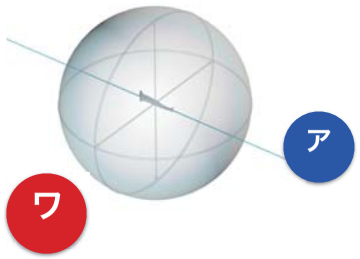
持続の概念をベースとした進化論

断片的な四次元時空
視覚正面

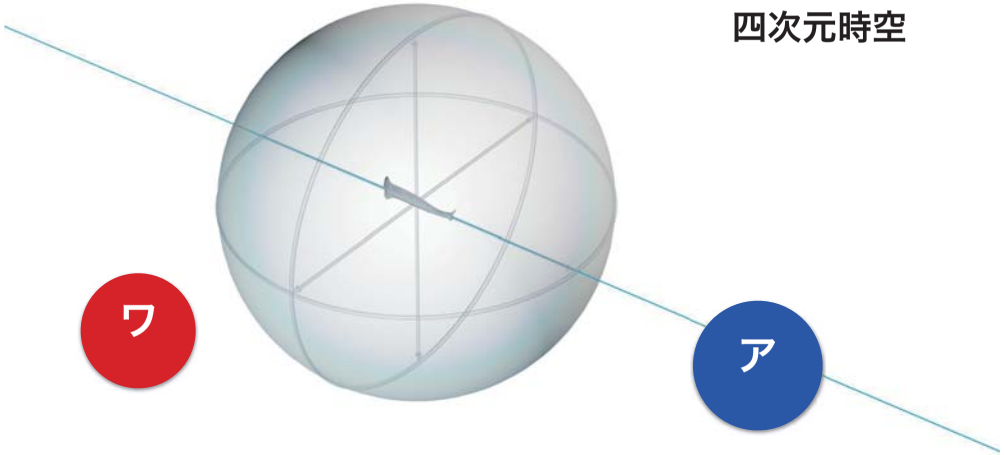


外部は時空の玉を
割るとやってくる。
賜る。

最初のアが忘却しなければ、
ワによって閉じた球は
内側から割れ続ける。純粋持続。
アが失われると
玉が数珠のように連なっていく

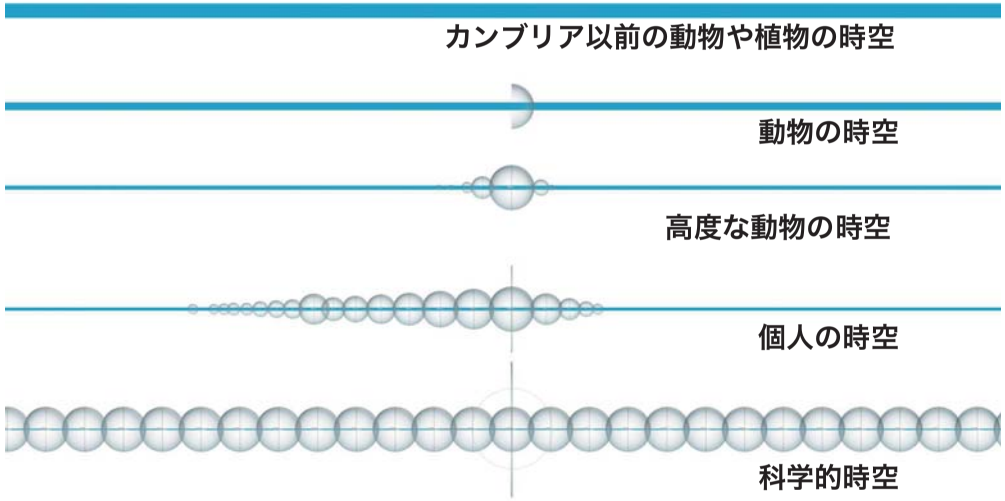


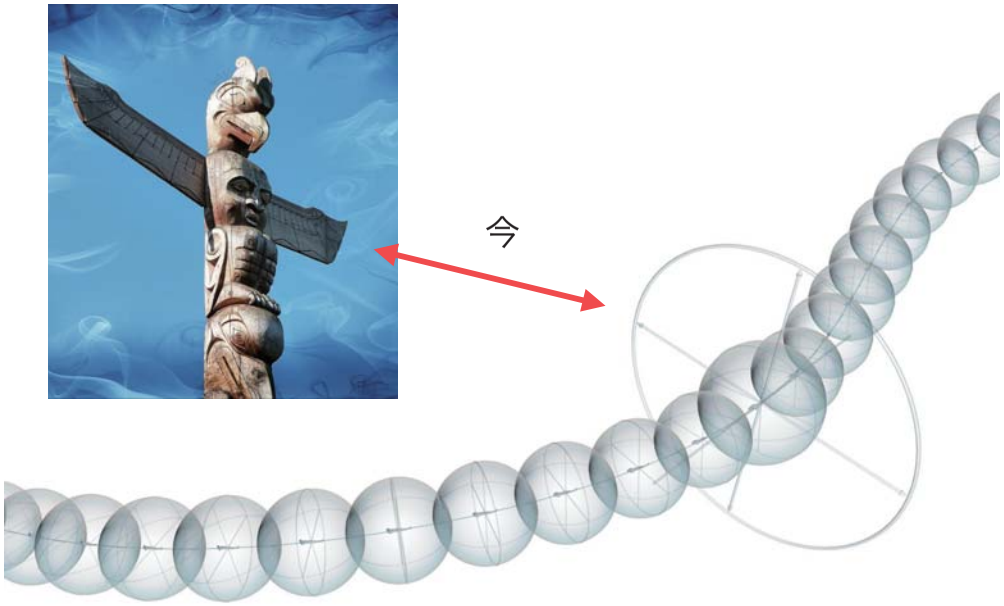
四次元時空



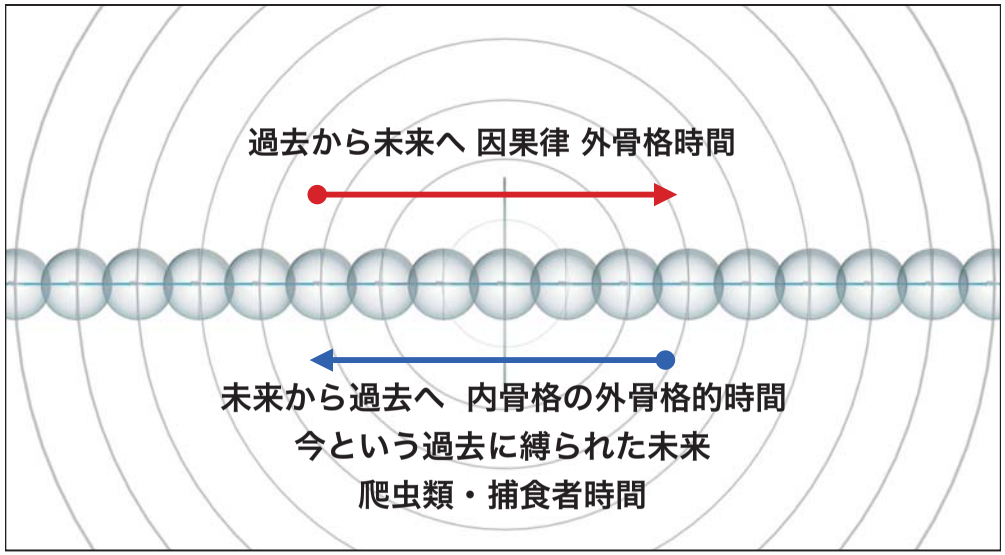
最初のアが忘却しなければ、
ワによって閉じた球は、内側から割れ続ける。純粋持続。
アが失われると、玉が数珠のように連なっていく

純粋持続=現実界への入り口

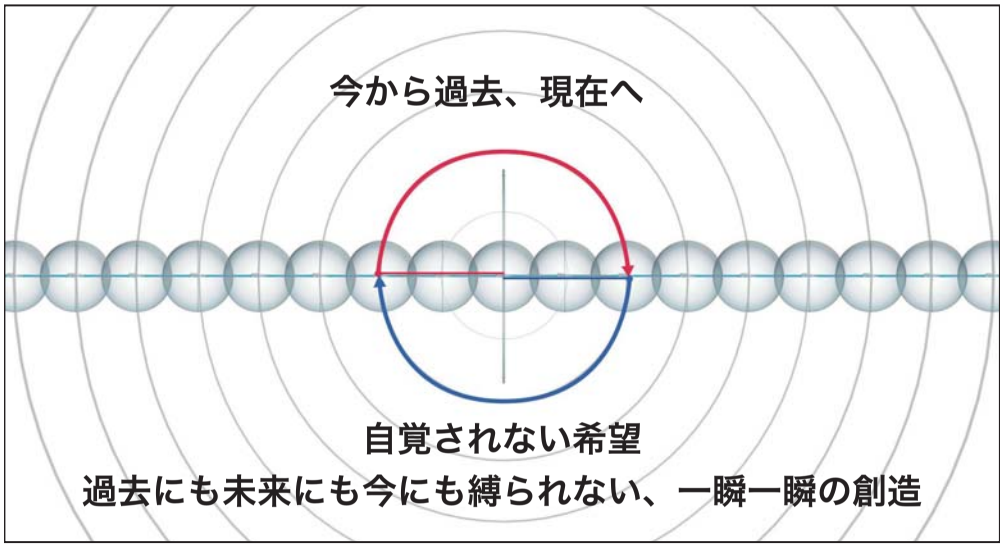




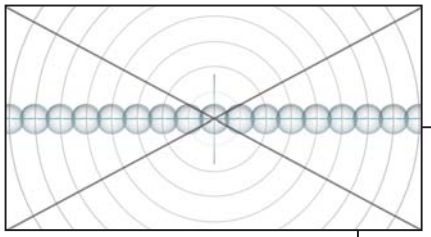
三つの時間概念

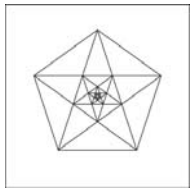


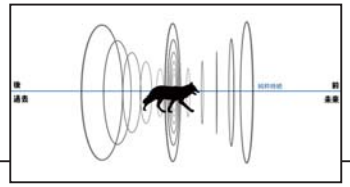
三つの時間概念

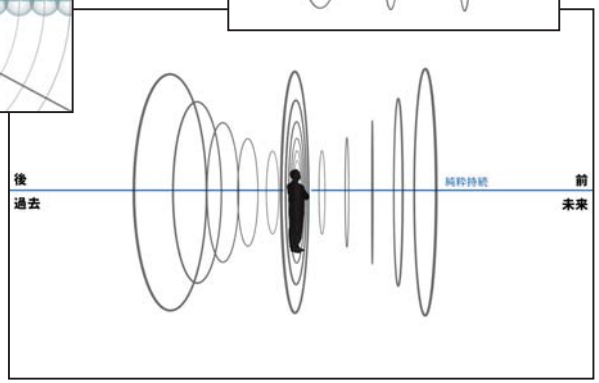


時空間の広がりを表す









純粋持続は魂の背骨
今に全てが畳み込まれる

今から時空が広がることを表すトポロジー

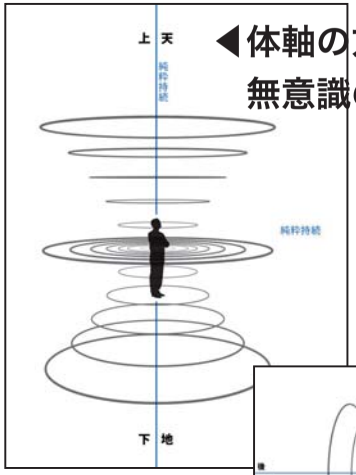
現実界、純粋持続は、今から始まる時空を、一瞬一瞬弾けさせ
今を不連続な、永遠の連なりとしてみた時浮かび上がります。
しかし、言語空間は、流れ去る今としての過去を、現在に保存し
時空連続体を形成します。今を過去の延長の因果律に位置付けるのです。

言語空間を弾けさせリセットし純粋持続に参入した意識は、
過去にも未来にも縛られません。
それは、一瞬一瞬発生する完全な自由意識です。
純粋持続は瞬間の連続体なので永遠でもあります。

ですが、その全体像が見えないまま、純粋持続に立てば
それは支離滅裂な狂気でもあります。

カスタネダなどの呪術は、時空連続体を「管理された愚かさ」として捉
え、言語空間へ繋がりを保ったまま、ナワール、無限と呼ぶ、純粋持続
との往復を果たします。

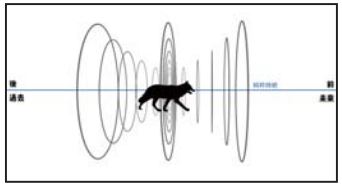
三つの時間概念

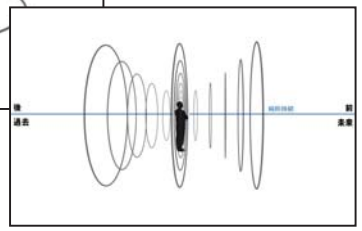


◀体軸の方向は上に。
無意識の進化軸。

動物は身体軸と進化(変化)
の方向(前=奥行き)が
体軸と一致

動物意識では
上は背中
上は人間にとって
の潜在的前。
この統合で背中
が前となる

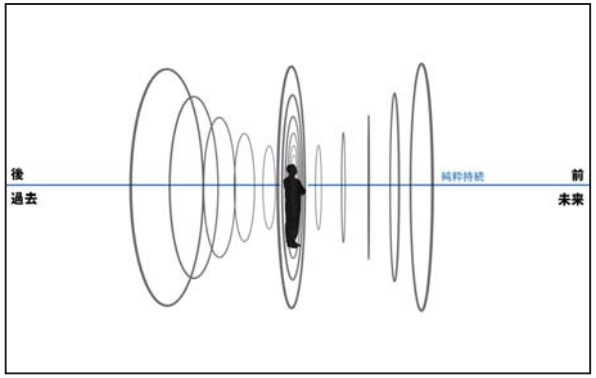




◀前の方向は
顕在化した変化軸

持続と禊

今とは創造の瞬間の
ゼロポイント。



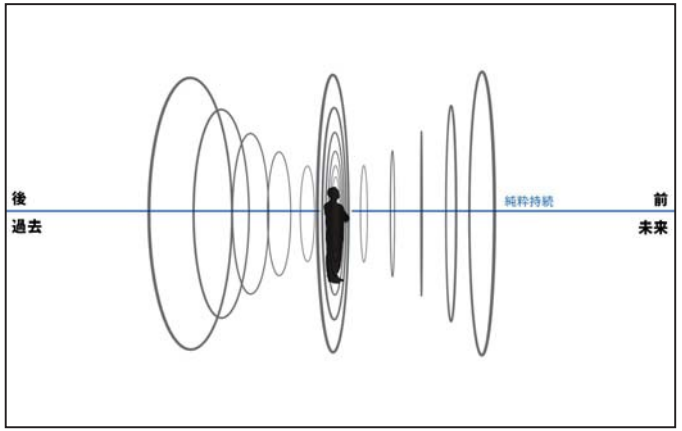
ホ・オポノポノの記憶
のクリーニングや
中今の概念と禊は
この純粋持続を利用し
た癒しとも繋がります。

純粋持続は時空ではな
いので、奥行きと時間
のない、一瞬一瞬の前
があるだけです。

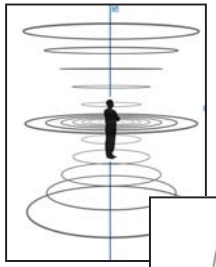
ウハネは言葉で世界を作る
ウニヒピリは言葉を持たず
記憶だけを持つ

第二の持続は、ウニヒピリの記憶
に押し上げられながら、それを固
定するウハネの言葉で形成される。

純粋持続は
ウニヒピリを
入り口とし、
アウマクア
さらに
共有的アウマクア
まで一つに統合し
ていく

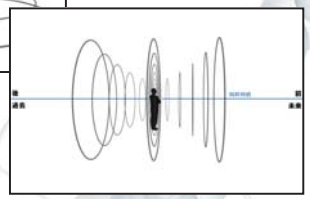


トーテムと持続

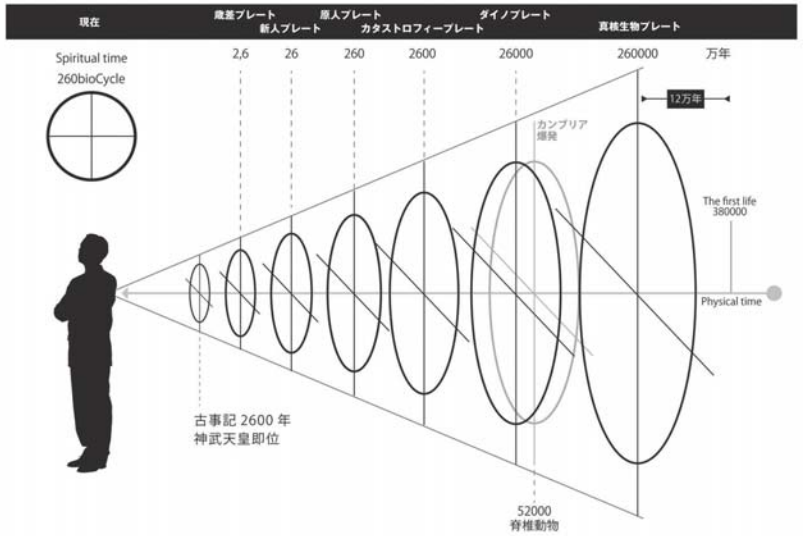


◀身体無意識

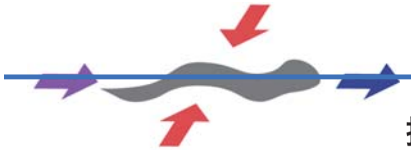
▼個の体験意識



植物は現実界を生き、人間は言語空間(象徴界)を生きます。
動物はその狭間を移行する意識で、
動物進化はその失われたプロセスを描きます。
時空は"今"から言語空間が拡大して形成されます。
トーテムポールは、持続の中で時空が分離する様子を表すイコンであり、
十字架の隠されたカタチ、ケツアルクアトルとみなすことができます。



蛇の体軸と意識



持続は奥行きに畳み込まれています。

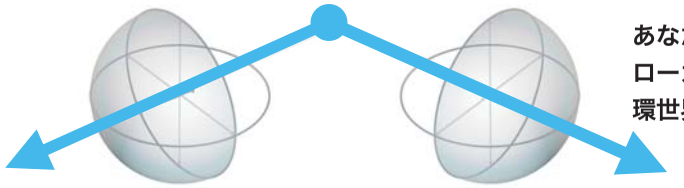
現実界、すなわち純粋持続を生きる動物は、
背骨の体軸はそのまま奥行き方向と重なります。
外骨格側は最適化として、時空を形成し
その反映を引き起こすのに対して内骨格はその反映から自由になり、時空を超えた進化を見せます。
そう考えると背骨は、純粋持続の身体的表現と言えるのではないでしょうか。これは、トーテムの断面でもあり、そこには黄金比が埋め込まれています。

見られる意識は、時空間に、私の位置を形成します。
つまり、時空を作るのは見られる意識となります。
外骨格意識は、時空形成方向の進化(幅進化)と言えます。
内骨格は、観るを先手に取るので、形成された時空を解体する奥行き進化となります。

これが人間の言語空間で行われると、一気に持続から切り離されて
広大な時空世界に閉じ込められることになります。

ANIMANDALA

多神教の世界では、ワールド座標は仮想的になります。
そして、個の座標の中心、個人的な神を通して、純粋持続へと参入します。持続は時空を持たないので、個人的神のその背後で、時空を持たない生命そのものとして接続することになります。



あなたの
ローカル座標
環世界

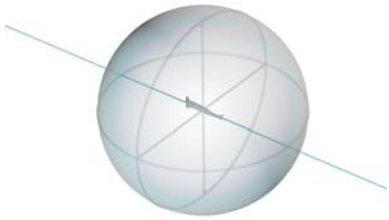
私のローカル座標
私の環世界

純粋持続は、流れだけれど
閉じた座標を持たないので
持続に立ち返ることで
時空を解体すると、
背中側で出会うことができます。

"観ること"が形成する時空は、本当は個別に中心座標を持つローカル座標ですが、それを強引にワールド座標で統合したのが、一神教や国家。物理世界。両者の対立と孤立が近代自我の意識ということになります。

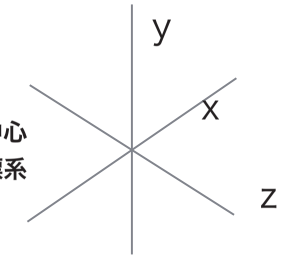
ワールド座標系では、決して
本当の意味で他者とは出会え
ません

あなたの
ローカル座標
環世界



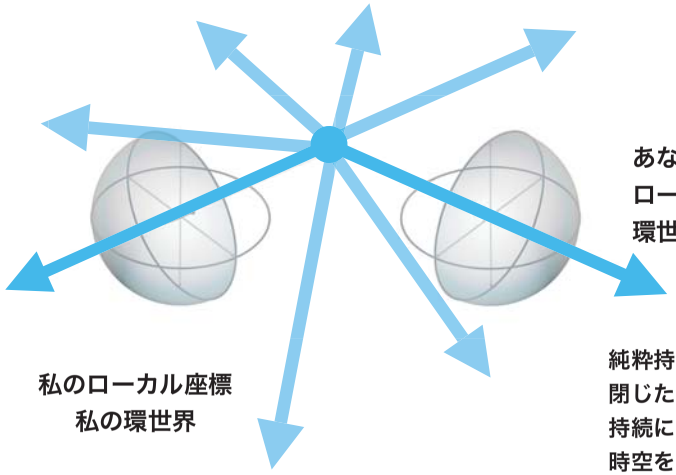
私のローカル座標
私の環世界

主体不在の中心
ワールド座標系



共有環世界

多神教の世界では個人的神のその背後、時空のない場所、
天之御中主、ハワイのポーと呼ばれる領域で重なりあいます。
多神教は、それを未開と蔑んだ西洋が、哲学などを通して発見した
沈黙の領域、現実界を前提とした神的世界を既に持っていました。



あなたの
ローカル座標
環世界

私のローカル座標
私の環世界

純粋持続は、流れだけれど
閉じた座標を持たないので
持続に立ち返ることで
時空を解体すると、
背中側で出会うことができます。

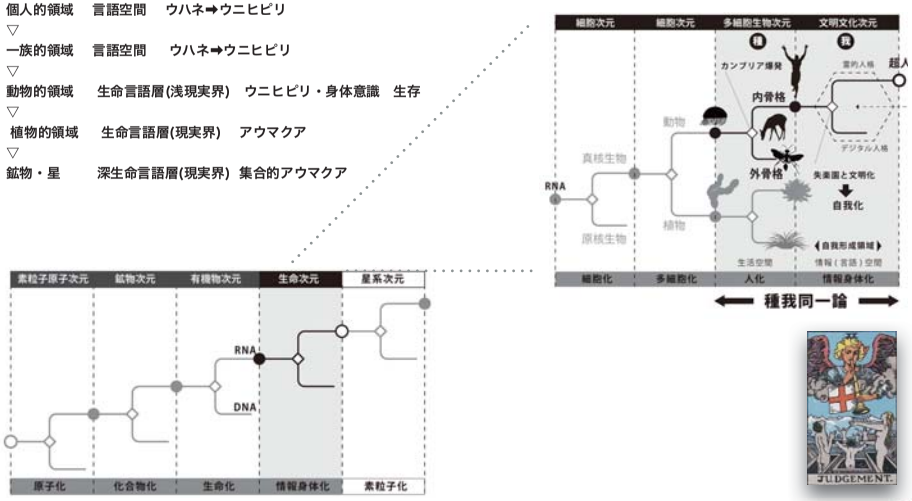
精神進化の系統樹

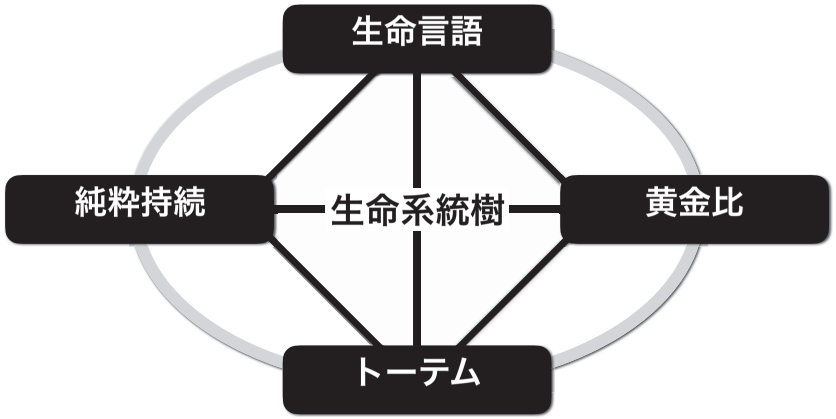
Animandala Explore

インテリジェント・トーテム

トラウマ・カルマ、禊の深度

個人的領域　言語空間　ウハネ➡ウニヒピリ
▽
一族的領域　言語空間　ウハネ➡ウニヒピリ
▽
動物的領域　生命言語層(浅現実界)　ウニヒピリ・身体意識　生存
▽
植物的領域　生命言語層(現実界)　アウマクア
▽
鉱物・星　深生命言語層(現実界)　集合的アウマクア

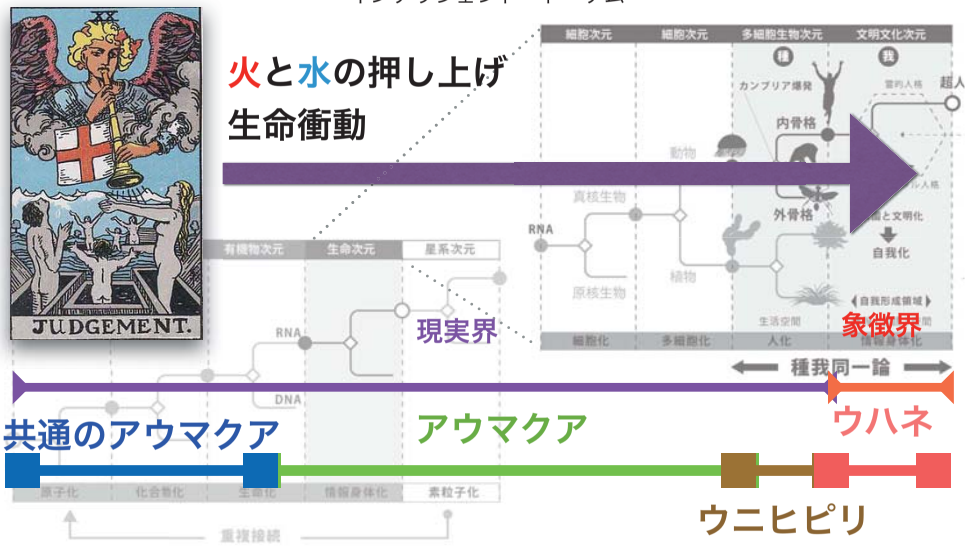




精神進化の系統樹

Animandala Explore

インテリジェント・トーテム



「一粒の砂の中に世界を
一本の野原のなかに神を見ることは
あなたの掌に無限をたもち
ひとときの永遠を持つことだ」

ウィリアム・ブレイク

▼

究極の形霊としての生命言語
生命の根源的なフラクタル構造(アナロジーシンボル)
純粋持続としてのトーテムの断面

古代の神々から神へ、姿なき精神の支配者へ

根元神(非存在) ワカンタンカ、天之御中主、本来のアメン？

▽

岩、樹木の自然神、(存在神) ➡蛇神(ミシャクジなど)

▽

動物神(多様性の神)、星信仰　　個人的神=神々=ローカル座標系

➡ヒルベルト空間

▽

太陽信仰　▲多神教、アニミズム、トーテミズム、シャーマニズム

▲エジプトの神々・ゾロアスター教など中間領域

▽

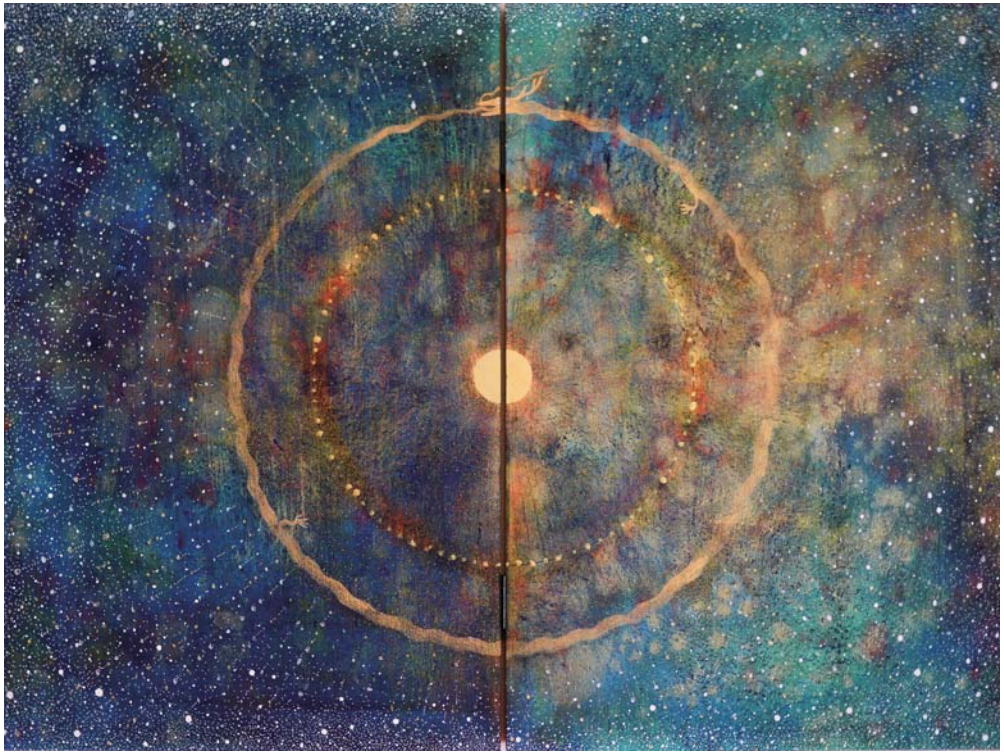
一神教 ➡ ローカル神/動物神の転落　　絶対神=神=ワールド座標系

(国家形成、唯一の神=国家の神)　　➡ミンコフスキー空間

▽

見えない信仰　資本主義(金と太陽の結びつき)

絶対神(外在の太陽神)に抑圧された動物神(内在の太陽神、星神)



あなたは、持続という名の竜の背に乗り、自らの動物神を成熟させ、人間神へと育て上げる旅人。
変遷する動物神の全履歴を刻んだトーテムを覚醒させ、真実の太陽を輝かせるとき、あなたは人間神となります。

アナタは神、ワタシは神、そしてワタシタチは偽りの神。

この地球は、星々が大地に舞い降り、動植物を経て、そして人間意識へと進化成長するためのダンスホールです。
トーテムとは、星との通信装置で、また旅路の全軌跡を保管するレコーダーのこと。

地球に降り立った時、あなたは記憶の大半を失い、ちっぽけな存在となりました。
星々と呼ばれた太陽を忘れ、あなたは共有の太陽を見上げ、地球の夢を観はじめます。

それは、星々を成長させるための進化の夢。

星に黄金比を刻み、更なる輝きを与えるため、あなたは星の記憶を思い出せぬまま、
美しい一匹の神獣として、あなた以外の神々とダンスをします。

地球の夢で自らの素性を忘れ、夢に沈んで、現実界を失った魂はかりそめの太陽を太陽だと思いました。そして、夢を維持するため
他の星々を巻き込み、偽りの地球を作り出しました。
しかし、星の記憶はトーテムの複製装置、"背骨"を通して、常にあなたの意識に働きかけていました。
それを自覚できなくとも、星の記憶、無意識の希望に突き動かされるものは成長の夢を歩みます。

あなたは様々な動物の道を歩み、とうとう人となりました。
そしてその旅路の最後に、トーテムの記憶を解放し、再生した星として生き始めます。

あなたの旅路は、いよいよ最後の段階へと入りました。
七色の毛を持つ美し獣、人間よ。黄金比の回転を刻んだバラを胸に、星へと還る、準備はできたでしょうか？

星々の場で、私はあなたと再会できる時を楽しみにしています。
その時、私たちは互いの本当の姿を見るでしょう。

あなたの中の動物神が覚醒する時、全生命の記憶が溢れ出します。
その全生命の記憶は星と繋がる竜体で、星を新たな太陽へと押し上げ続けます。

あなたの本性は、命そのものとしての竜体です。
それはウロボロスですが、咥える尻尾は、過去の自分の尾ではなく、永遠の自分の尾で、螺旋に開かれています。
星から生まれ、星へと帰るその断面は、黄金比を秘めた星のカタチ。なぜなら竜体は、星が放射する光なのですから。

トーテムとは、その竜体のことである！と洞察する視座が、インテリジェントトーテムです。

これらをトーテムとして統合し
貫くアナロジカルな知性
インテリジェントトーテム
人は情報空間に進出し
垂直進化と水平進化を
再び繰り返す
INFORMATION SPACE
PHYSICAL SPACE
GROUND SPACE
UNDER WATER SPACE
Tattoo Designs